

様式第2号（第5条関係）

平成24年3月8日

政 務 調 査 報 告

栗山町議会議長 鶴川 和彦様

栗山町議会議員 大平 逸男

このたび、政務調査のため出張しましたので次の通り報告いたします。

○

○

日 時	平成 24 年 2 月 15 日
視 察 先	岩手県葛巻町
調査項目	自然エネルギーの活用
対 応 者	農林環境エネルギー課 鈴木職員
視察内容	葛巻町は、人口 7,417 人、面積は 434.99 km²で森林が 86%、標高 400m 以上のところが 95%と山間の町で、酪農と林業が基幹産業の町でした。 1999 年 3 月、新エネルギービジョンを策定。 基本理念「天と地と人のめぐみを生かして」 天の恵みは、風、太陽光、熱 地の恵みは、家畜糞尿、森林、水 人の恵みは、豊かな風土、文化を守り育てたである。 クリーンエネルギーの導入により、魅力ある町・魅力ある町人への返還を図りました。 きっかけは、☆地域資源を生かした街の魅力づくり ・「自然とともに豊かに生きる町」の宣言（1995 年） ☆地球温暖化防止京都会議（COP3） ・温室効果ガスの排出規制 ☆町民の理解・協働 ・町議会全員による海外視察などを挙げておりました。 風力発電では、第三セクターによる発電所が 2 ヵ所、中学校などの公共施設に 3 か所あり、町には、固定資産税として約、3、000 万円の歳入があるそうです。また、モデルエコ住宅を建設。その他町民による取り組みが紹介されました。また、新エネルギー導入補助金があり、多くの実績がありました。家畜糞尿を利用したバイオガス発電、間伐材を利用した木質ペレットストーブの普及、木質バイオマスのガス化熱電供給システムの実証試験など地域の自然資源を有効活用されておりました。
考察	福島原発の事故以来、自然エネルギーによる発電が注目されている中で先駆けての取り組みに感心してまいりました。本町では、H24 年度より太陽光発電に対する助成が計画されておりますが、まだ何か資源の有効活用があるような感じがあります。今後の活動を考えさせられました。

日 時	平成 24 年 2 月 16 日
視察先	岩手県滝沢村
調査項目	議会改革の取り組み
対応者	山谷 仁議長 斉藤 健二副議長 斉藤 澄子議運委員長 熊谷 初男副 議運委員長 議会事務局長 議会事務局主査
視察内容	滝沢村は、盛岡市の北西部に位置し、村役場は盛岡の中心ちから 8 Km の距離にあります。昭和 50 年ころは、人口が訳 16 千人の都市近郊農業地帯でした。現在では、平坦部より民間宅地開発、事業所、大学の立地が進み、都市化が進行し、都市基盤の整備に取り組んでいるところです。急激な都市化に都市計画が追い付かず、都市としてのまとまりのない開発が進んだことに悩みがあるとのことでした。 平成 14 年に行政経営理念を制定、平成 17 年 3 月には住民協働で第 5 次滝沢村総合計画の策定し、10 年後の将来像と各種施策を展開している。これらに高い評価を受け、2006 年度日本経営品質賞地方自治体部門を受賞。 議会としては、議会情報の積極的な発信を行い、住民に開かれた議会として、意欲的に議会の活性化に取り組んでいる議会として、平成 21 年度町村議会特別賞を受賞。 議会の主な改革 1. 住民と議会議員の懇談会 2. 議会情報の積極的な発信 3. 議会報告会の開催 4. 新成人議会の開催
考察	現在滝沢村は、毎年急激な人口の増加により、人口 54 千人を超える市となり、平成 25 年の市への移管準備が進められておりました。本町にとっては、人口の減少に歯止めをかけるのに苦慮している中でうらやましい限りでした。わが町議会は、全国に先駆けて議会基本条例を策定し、議会改革に努めておりますが、議会の改革は限りなく進むものだと考えております。今後予定されている住民基本条例の制定に議会としても真剣に取り組み、真の住民自治に向けて邁進してまいりたい。